

科目名 【英】	心理学 Psychology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7
担当教員	静間 健人	実務者経験					
学習内容	1. 科学的な心理学の研究法。 2. 知覚、記憶、学習。 3. 認知心理学。 4. 社会心理学。 5. 臨床心理学。以上の側面について学ぶ。						
到達目標	心理学の基礎知識を学び、人間の行動のメカニズムを理解できるようになること。 他者の意見を尊重しながら自身の意見を主張することができるようになること。 以上のことが期待される。						
準備学習 時間外学習	授業内容の復習が必要						
使用教材	教科書「図説 現代心理学入門（倍風館）」						
留意点 備 考	適宜プロジェクターを使用しパワーポイントを呈示する。						
成績評価	筆記試験８０％、小テスト・レポート２０％						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	心理学1	心理学とは何か、心理学の諸領域 心理学には様々な領域があることを説明できる。	
2	心理学2	心理学の歴史 心理学がどのように発展してきたのか、歴史を説明できる。	
3	心理学3	心理学研究法 心理学研究のアプローチを説明できる。	
4	心理学4	感覚・知覚 日常生活における感覚・知覚のはたらきを説明できる。	
5	心理学5	記憶 人の記憶には、どのような種類・働きをしているのか説明できる。	
6	心理学6	学習 人における新しい行動獲得の過程を説明できる。	
7	心理学7	感情 感情の種類、感情のはたらきを説明できる。	
8	心理学8	自己 人が自分をどのように認知し、自分らしさを獲得していくかを説明できる。	
9	心理学9	対人関係 他者に対する態度や対人関係の形成について説明できる。	
10	心理学10	コミュニケーション コミュニケーションと個人間の社会的影響について説明できる。	
11	心理学11	集団 集団という社会的環境が人に与える影響を説明できる。	
12	心理学12	成熟と成長 人が一生を通していかなる行動変化を見せるのか説明できる	
13	心理学13	パーソナリティ パーソナリティ理論、測定の方法を説明できる。	
14	心理学14	ストレスとストレス対処 ストレスと適応について説明できる。	
15	心理学15	まとめ	

科目名 【英】	生理学 3 Physiology 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	7
担当教員	三島 隆章	実務者経験	2009年4月～2015年3月までは八戸大学、2015年から現在に至るまでは大阪体育大学にて、スポーツ生理学に関する講義を担当している。				
学習内容	小児期から青年期に至る発育発達特性や競技者における身体の生理学的特徴を理解すること、また、成長期を経て高齢期に至る過程で身体に生じる生理学的特徴および変化を理解することは、大変意義的なものである。そこで本講義では、小児期から青年期、さらには高齢期に到るまでのライフステージに沿って、生理学的な特徴や変化を学習する。						
到達目標	小児期から青年期に至るまでの発育発達特性、競技者の生理学的特徴を理解し、説明することができる。また、高齢者の生理学的特徴および変化を理解し、説明をすることができる。						
準備学習 時間外学習	準備学習として、授業計画を参照のうえ積極的な情報収集を行った上での受講を望む。時間外学習としては、授業での学習内容を日々目や耳にする情報と関連付けて理解を深めることを望む。						
使用教材	教科書『生理学改訂第4版』（南江堂）、配布プリント						
留意点 備 考	授業計画は授業の進行状況により前後することや変更する場合がある。						
成績評価	期末試験 60%、毎時のレポート 20%、受講態度 20%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化1	小児期から青年期の発育曲線 小児期から青年期までの発育曲線について説明できる。	
2	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化2	小児期から青年期の発育の特徴 小児期から青年期までの身長、体重、骨および筋の発育の特徴について説明できる。	
3	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化3	小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動 小児期から青年期までの呼吸機能、心臓の形態および循環機能の発達について説明できる。	
4	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化4	発育期の運動不足・過運動の影響 発育期の運動不足、トレーニングの三大原則、過運動および骨の病気について説明できる。	
5	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化5	運動の発達と習熟 運動の発達と習熟として、歩行と走行、持久力の発達について説明できる。	
6	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化6	トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化および神経機構の変化 トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化、神経機能の変化を説明できる。	
7	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化7	トレーニングによる姿勢調節能力の変化および眼球運動と姿勢制御 トレーニングによる姿勢調節能力の変化や眼球運動と姿勢制御について説明できる。	
8	高齢者の生理学的特徴・変化1	細胞・組織の加齢現象 細胞、生体膜、細胞内小器官、体内水分量の加齢変化について説明できる。	
9	高齢者の生理学的特徴・変化2	加齢による臓器機能の変化 加齢による神経系、運動器系の変化について説明することができる。	
10	高齢者の生理学的特徴・変化3	加齢による感覚器系の変化 加齢による視覚、聴覚、嗅覚、味覚および前庭感覚の変化を説明することができる。	
11	高齢者の生理学的特徴・変化4	加齢による呼吸循環器系の変化 加齢による循環器系、呼吸器系、消化器系および皮膚の変化を説明できる。	
12	高齢者の生理学的特徴・変化5	高齢者に多い疾患・障害1 高齢者に多い疾患・障害としてフレイルおよび認知症を説明できる。	
13	高齢者の生理学的特徴・変化6	高齢者に多い疾患・障害2 高齢者に多い疾患・障害として骨粗鬆症、転倒および睡眠障害について説明できる。	
14	高齢者の生理学的特徴・変化7	運動と加齢 歩行機能、平衡機能および反応時間の加齢変化について説明することができる。	
15	まとめ	期末試験のフィードバックを行うことで、講義全体の理解を深める。	

科目名 【英】	解剖生理学 1 Anatomy and Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	池 宏海	実務者経験	大阪歯科大学解剖学講座で大学院・助手・助教。講師として22年間従事。その後、池歯科医院を開設し地域歯科医療に従事ならびに専門学校の非常勤講師として解剖学・生理学の講義に従事し、現在に至る。
------	------	-------	--

学習内容	医療に最も必要不可欠な基礎学問である解剖学・生理学を学ぶ。
到達目標	人体を形態的・機能的に追究し臨床に繋げられるようになる。 柔道整復師の国家試験に向かって知識レベルを上げる。

準備学習 時間外学習	1年生で学んだ解剖学・生理学の教科書を再度読み理解度を再認識する。国試の過去問題を多く解く。
使用教材	解剖学 生理学 （医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験のみで100%評価
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（1）	内分泌腺と外分泌腺との比較の説明ができる。下垂体の前葉・後葉から分泌されるホルモンを説明できる。神経分泌・下垂体門脈の特徴を説明できる。	
2	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（2）	松果体の形態と機能を説明できる。甲状腺と上皮小体を説明できる。	
3	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（3）	副腎・膵臓・精巣・卵巣から分泌されるホルモンを説明できる。	
4	神経系 神経系の基礎	神経系の区分を説明できる。 脳室・脳脊髄液を説明できる。	
5	神経系 中枢神経 脳	大脳（皮質・髄質）、間脳（視床・視床下部）について説明できる。	
6	神経系 中枢神経 脳	脳幹（中脳・橋・延髄）・小脳について説明できる。	
7	神経系 脳・脊髄	伝導路・脳脊髄神経について説明できる。。	
8	神経系 自律神経	交感神経・副交感神経について説明できる。。	
9	脈管系 総論 心臓	弁・心膜・伝導系について説明できる。	
10	脈管系 動脈系	大動脈と各部の動脈について説明できる。	
11	脈管系 静脈系・リンパ系・胎児循環	大静脈と各部の静脈を説明できる。胎児循環の特徴を説明できる。リンパ系（本幹、リンパ節）を説明できる。	
12	内臓系 消化器系（1）	口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門について説明できる。	
13	内臓系 消化器系（2）	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜について説明できる。	
14	呼吸器系（1）	ガス交換、外鼻・鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について説明できる。	
15	呼吸器系（2）	気管・気管支・肺・胸膜について説明できる。	

科目名 【英】	運動学 Kinesiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解できる。	
2	運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解できる。	
3	運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解できる。	
4	運動学 4	四肢と体幹の運動 1 【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解できる。	
5	運動学 5	四肢と体幹の運動 2 【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解できる。	
6	運動学 6	四肢と体幹の運動 3 【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解できる。	
7	運動学 7	四肢と体幹の運動 4 【股関節】 股関節の構造・機能について理解できる。	
8	運動学 8	四肢と体幹の運動 5 【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解できる。	
9	運動学 9	四肢と体幹の運動 6 【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解できる。	
10	運動学 10	四肢と体幹の運動 7 【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。	
11	運動学 11	四肢と体幹の運動 8 【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。	
12	運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解できる。	
13	運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解できる。	
14	運動学 14	運動発達 運動発達について理解できる。	
15	運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解できる。	

科目名 【英】	整形外科学 Orthopedic Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科学を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識②	筋 靱帯 腱 の基礎知識、運動器の科学 の 理解 と 習得	
2	整形外科診察法②	跛行 拘縮・強直 知覚 反射 の 理解 と 習得	
3	整形外科検査法②	電気生理学的検査・関節鏡検査・超音波検査の診方 の 理解 と 習得	
4	整形外科的治療法②	観血的治療 の 意味 と 意義 と 方法 の 理解 と 習得	
5	骨・関節損傷総論②	小児骨折・開放骨折・疲労骨折・病的骨折 の 診断・治療 の 理解 と 習得	
6	スポーツ整形外科総論	スポーツ整形外科 の 役割 と 位置づけ の 理解 と 習得	
7	感染性疾患②	ブロディー骨膿瘍・骨関節結核・化膿性関節炎 の 理解 と 習得	
8	骨および軟部腫瘍②	良性骨腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
9	変形性関節症	変形性関節症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
10	結晶誘発性関節炎	結晶誘発性関節炎の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
11	血清反応陰性脊椎関節症	血清反応陰性脊椎関節症の 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
12	骨粗鬆症②	骨粗鬆症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患②	軟骨無形成性症・モルキオ病・骨形成不全症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
14	骨端症①	骨端症の総論・ペルテス病・オスグッド病・ブランド病の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
15	四肢循環障害	末梢動脈・静脈疾患の 病態 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	

科目名 【英】	病理学概論 Introduction of Pathology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率60%を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論 改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	試験100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	I. 病理概論・病 因・国家試験問題解 説・II. 先天異常⇔ 後天性疾患-1	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
2	III. 循環障害-1	授業内容（血液やリンパ循環の障害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
3	IV. 細胞障害-1	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
4	V. 増殖と修復-1	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
5	VI. 炎症-1	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
6	VI. 炎症-3	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
7	VII. 免疫-1	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
8	VII. 免疫-3	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
9	VIII. 腫瘍-1	授業内容（良性腫瘍と悪性腫瘍の差）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
10	I. 病因・II. 先天 異常⇔後天性疾患-3	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
11	VI. 炎症-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
12	VII. 免疫-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
13	VIII. 腫瘍-3	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
14	総まとめ-1	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
15	総まとめ-3、試験	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	

科目名 【英】	臨床柔整学応用各論 1 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の各論、定型的転位、応用固定学、臨床を学ぶ。
到達目標	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の臨床と介護予防	柔道整復師の臨床、医接連携、介護予防通所介護の機能訓練士の業務が理解できるようになる。
2		上腕骨近位端部骨折	上腕骨骨頭部骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後、肩関節の構造と機能などが説明できる。
3		上腕骨近位端部骨折	上腕骨解剖頸骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後などが説明できる。
4		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頸骨折の発生機序、症状、鑑別診断などが説明できる。
5		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頸骨折の固定法、骨癒合、後療法、予後などが説明できる。
6		上腕骨近位端部骨折	上腕骨大結節、小結節単独骨折、近位骨端線離開の発生機序、整復、固定法、合併症が理解できるようになる。
7		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、骨片転位理解ができるようになる。
8		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の整復法、固定法、後遺症、骨癒合、予後が理解できるようになる。
9		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、分類、骨折線、骨片転位が理解できるようになる。
10		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の症状、受診時の注意事項、X線による評価が理解できるようになる。
11		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の整復、固定、後療法、Fat pad sign、肘関節後方脱臼との鑑別が理解できるようになる。
12		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の後遺症、フォルクマン拘縮、骨化性筋炎が理解できるようになる。
13		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨外顆骨折の特徴、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
14		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
15		試験解答	前期筆記試験解答と解説

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 2 Clinical Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2024年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験100%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	オリエンテーション 股関節脱臼 1	評価基準・講義に関する略号・股関節部の【解剖・下肢のアライメント・バイオメカニクス】 股関節脱臼【後方脱臼の発生機転・症状】に関して説明ができる	
2	股関節脱臼 2	小テスト。前回の復習。股関節脱臼【後方脱臼の整復障害・整復法・前方脱臼・中心性脱臼】 股関節脱臼について説明ができる	
3	膝関節脱臼 1	小テスト。前回の復習。膝関節脱臼【膝関節部の解剖・発生機序・分類・症状・合併症・ 治療】。膝関節脱臼の分類の説明ができる	
4	足部の脱臼 1	小テスト。前回の復習。足部の脱臼【足部の解剖・距腿関節脱臼・横足根関節損傷・足根中足関節】距腿関節脱臼・横足根関節損傷・足根中足関節について説明ができる	
5	足部の脱臼 2	小テスト・前回の復習・足部の脱臼【中足趾節関節、趾節間関節の脱臼・発生機序・分類など】中足趾節関節脱臼・趾節関節脱臼を説明することができる。	
6	下腿骨近位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。下腿骨近位端部【下腿骨近位端部の解剖・アライメント・分類】 下腿骨近位端部の構造・骨折分類の説明ができる	
7	下腿骨近位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折】顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折について説明ができる	
8	下腿骨近位端部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【腓骨頭単独骨折・Segond骨折】・下腿骨幹部骨折。 腓骨頭単独骨折・Segond骨折・下腿骨骨幹部骨折の発生機序について説明ができる	
9	下腿骨骨幹部骨折 1	小テスト。前回の復習。脛骨骨幹部【脛骨単独&脛腓両骨骨折の転位・症状・治療法・後遺症】脛骨単独&脛腓両骨骨折について説明ができる	
10	下腿骨骨幹部骨折 2	小テスト。前回の復習。腓骨骨幹部骨折&下腿骨顆上骨折【分類・発生機序・転位・症状・ 治療法など】。腓骨骨幹部骨折&下腿骨顆上骨折について説明できる。	
11	下腿骨骨幹部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿骨疲労骨折【分類・発生機序・転位・症状・治療法など】。 下腿骨疲労骨折について説明できる。	
12	下腿骨遠位端部骨折 および足関節脱臼骨折 1	小テスト。前回の復習。足関節部の解剖、バイオメカニクス・下腿骨果部【冠名骨折、部位別分類など】。足関節部の解剖や下腿果部骨折の分類を説明することが出来る。	
13	下腿骨遠位端部骨折 および足関節脱臼骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【ラウゲ＝ハンセン分類の転位・症状など】。 下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折のラウゲ＝ハンセン分類による説明ができる。	
14	下腿骨遠位端部骨折 および足関節脱臼骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【受傷外力による分類の症状・治療法など】。 下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折の受傷外力による分類での説明ができる。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 3 Clinical Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	柔道整復学における前腕部の骨折、脱臼、軟部組織損傷及び手関節部における軟部組織損傷に対する病態、症状、治療法について学ぶ。
到達目標	症状や発生機序を理解し傷病の決定、治療法の決定ができる。臨床現場において実際に活用できるレベルかつ、柔整国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（特に筋学、骨学）の予習復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		前腕部損傷 1	前腕部の解剖と機能を理解、説明できる。前腕骨骨幹部骨折の概要を説明できる。
2		前腕部損傷 2	橈骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、が説明できる。
3		前腕部損傷 3	橈骨骨幹部骨折の合併症、治療法、後遺症が説明できる。ガレアジ骨折の病態の説明ができる。
4		前腕部損傷 4	尺骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、治療法が説明できる。
5		前腕部損傷 5	モンテギア骨折の概説、分類、治療法、後遺症の説明ができる。
6		前腕部損傷 6	橈尺両骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、合併症、の説明ができる。
7		前腕部損傷 7	橈尺両骨骨幹部骨折の治療法、後遺症、難治理由の説明ができる。
8		前腕部損傷 8	橈骨近位端部骨折の概説、発生機序、骨折型、症状、合併症、治療法の説明ができる。
9		前腕部損傷 9	肘頭骨折の概説、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、合併症、治療法の説明ができる。
10		上腕部損傷 1	橈骨神経損傷、尺骨神経損傷の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
11		上腕部（肘関節部）損傷 1	肘関節側副靱帯損傷、後外側回旋不安定症の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
12		上腕部（肘関節部）損傷 2	野球肘の分類、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
13		上腕部（肘関節部）損傷 3	テニス肘の概説、発生機序、症状、検査法、治療法の説明ができる。
14		上腕部（肘関節部）損傷 4	パンナー病、変形性肘関節症の概説、症状などの説明ができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 4 Clinical Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014- 東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	---

学習内容	前腕部、手関節部、手指部の軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。
到達目標	1. 疾患概念を説明できる。 2. 各損傷におけるポイントを説明できる。 3. 前腕部、手関節部、手指部の解剖と機能について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版（南江堂） / PC / 配布資料
留意点 備 考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	前腕部軟部組織損傷 1	前腕コンパートメント症候群 コンパートメント症候群の病態と注意点を説明できる。	
2	前腕部軟部組織損傷 2	前腕部・手関節部腱鞘炎【解剖・症状・治療】 腱交叉症候群、ドケルバン病の疾患概念を説明できる。	
3	手関節軟部組織損傷 1	TFCC損傷【解剖・分類・症状・治療】 本症の疾患概念を説明できる。	
4	手関節軟部組織損傷 2	骨関節疾患【概要・症状・分類・治療】 キーンベック病、マーデルング変形の疾患概念を説明できる。	
5	末梢神経障害 1	絞扼性神経障害・上肢【概要・解剖】 上肢における神経の走行の特徴を説明できる。	
6	末梢神経障害 2	正中神経障害①【解剖・分類・概要】 正中神経障害を分類することができる。	
7	末梢神経障害 3	正中神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 手根管症候群の症状を説明することができる。	
8	末梢神経障害 4	尺骨神経障害①【解剖・分類・概要】 尺骨神経障害を分類することができる。	
9	末梢神経障害 5	尺骨神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 ギヨン管症候群の症状を説明することができる。	
10	手・手指部軟部組織損傷 1	指側副靱帯損傷【概要・症状・検査法・治療】 本損傷の保存療法の限界を説明できる。	
11	手・手指部軟部組織損傷 2	ロッキングフィンガー、弾発指【概要・症状・治療】 ロッキングフィンガーと弾発指の概要を説明できる。	
12	手・手指部軟部組織損傷 3	手指の変形【概要・メカニズム】 手指変形を起こす原因を説明できる。	
13	検査法	上肢における徒手検査法	
14	前期まとめ	前期ポイント整理	
15	総復習	前期範囲の内容補填および復習	

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 1 Judo Therapy Conditioning Skill Practice			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。
到達目標	実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。

準備学習 時間外学習	動画視聴を行い、走行の復習をしておく。
使用教材	4.5.6裂包帯、3.8ホワイトテープ、三角巾、さらし、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント
留意点 備 考	包帯用ファイルを持参し、プリントを挟んでいく。

成績評価	実技試験90%、筆記試験10%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	足部の包帯 1	【足関節 上行麦穂帯】 上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
2	足部の包帯 2	【足関節 下行麦穂帯】 下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
3	足部の包帯 3	【鍔帯】 鍔帯の走行を覚え、巻くことができる。	
4	足部の包帯 4	【踵離開亀甲帯 + 三節帯】 離開亀甲帯の圧のかけ方を知る。	
5	下腿の包帯	【下腿の包帯】 下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
6	膝部の包帯	【膝関節離開亀甲帯】【膝関節集合亀甲帯】 膝関節亀甲帯の走行を覚え、巻くことができる。	
7	復習	今までの包帯法を振り返り巻くことができる。	
8	冠名包帯 1	【ヴェルポー包帯】 ヴェルポー包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
9	冠名包帯 2	【ジュール包帯】 ジュール包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
10	冠名包帯 3	【デゾー包帯（簡易ver.）】 デゾー包帯（簡易ver.）の走行を覚え、巻くことができる。	
11	鎖骨骨折の固定	【セイヤー絆創膏固定】 セイヤー絆創膏固定法の走行を覚え、固定の役割を知る。	
12	肋骨骨折固定 1	【さらし厚紙副子固定法】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。	
13	筆記試験	【筆記試験】 3年次に向け包帯固定の必修内容を覚える。	
14	総復習	【実技試験に向けての総復習】 実技試験に合格できるように試験を想定した練習をする。	
15	肋骨骨折固定 2	【屋根瓦状固定】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。	

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 2 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4
担当教員	山田 靖典 / 岩本 暁美		実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで整形外科勤務 (岩本) 2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう			
学習内容	ストレッチングを通じて患者とのコミュニケーション・接し方について学ぶ また解剖学として筋肉を理解する						
到達目標	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナー資格取得						
準備学習 時間外学習	資格取得にむけた自主練習						
使用教材	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナーテキスト						
留意点 備 考	出席率 1 0 0 %により受講資格が発生する						
成績評価	座学 2 0 問（ 4 択問題） 6 0 %以上の正答率。実技 3 題の評価						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	ストレッチングについて	ガイダンス。P2～10 ストレッチングについて学ぶ。	
2	ストレッチング 下肢	大腿部前面後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。	
3	ストレッチング 下肢	大腿内転筋群・股関節前面・後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。	
4	ストレッチング 下肢・体幹	股関節後面・胸部のストレッチングを理解し、実施できるようになる。	
5	ストレッチング 体幹・バリエーション	背部・上腕前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。	
6	頸部・肩部筋肉の 触診	僧帽筋・肩甲挙筋・胸鎖乳突筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
7	上腕後面・前面の 筋肉の触診	上腕三頭筋・上腕二頭筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
8	背部・腱板の筋肉の 触診	広背筋・棘上筋・棘下筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
9	前腕の筋肉の触診	前腕伸筋群と屈筋群の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
10	臀部の筋肉触診	大殿筋・中殿筋・小殿筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
11	股関節前面の筋肉 触診	腸腰筋/大腿四頭筋・脊柱起立筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
12	股関節後面の筋肉 触診	ハムストリングスの起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
13	下腿後面の筋肉触 診	腓腹筋・ヒラメ筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
14	下腿前面の筋肉触 診	前脛骨筋・長母指伸筋・長趾伸筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。	
15	前期試験		

科目名 【英】	柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	医療面接・徒手検査法・反射検査・感覚検査・運動機能検査を学ぶ
到達目標	臨床実習前教育で身につけておく基本的臨床能力を身につける

準備学習 時間外学習	一般臨床医学の検査法・リハビリテーション医学MMT、ROMを参照
使用教材	実技マニュアル・一般臨床医学
留意点 備 考	実技なのでK Cで白Tシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		身体触診法	四肢長・四肢周径・MMT・ROM行うことができる。
2		体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。
3		徒手検査 1	ジャクソンテスト・スパーリングテスト・上肢深部健反射・上肢病的反射を行うことができる。
4		徒手検査 2	SLRテスト、FNSテスト、ケンプ徴候、下肢深部健反射、下肢病的反射を行うことができる。
5		徒手検査 3	運動機能検査、（バレー徴候、指鼻試験、ロンベルグ試験）を行うことができる。
6		徒手検査 4	腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。
7		徒手検査 5	上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。
8		徒手検査 6	大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。
9		徒手検査 7	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
10		徒手検査 8	膝関節検査法 1（側方動揺性、アプレー牽引）を行うことができる
11		徒手検査 9	膝関節検査法 2（前方引き出し、ラックマン、Nーテスト）を行うことができる。
12		徒手検査 10	膝関節検査法 3（マックマレーテスト、アプレー圧迫、ワトソングジョーンズ）を行うことができる。
13		徒手検査 11	下腿三頭筋（誘発テスト、トンプソンテスト）を行うことができる。
14		徒手検査 12	足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。
15		徒手検査 13	前期振り返り・総復習

科目名 【英】	柔道整復実技 2 Judo Therapy Practical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	金釘直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。				
------	------	-------	--------------------------------------	--	--	--	--

学習内容	柔道整復理論を理解した上で脱臼整復を学習する。						
到達目標	実習を通じて整復法、固定法をできるようになる。						

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。						
使用教材	実技マニュアル、配布プリント						
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。						

成績評価	実技の期末試験100%						
------	-------------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肩関節前方脱臼	コッヘル法で整復できるようになる。
2		肩関節前方脱臼	コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。
3		肩関節前方脱臼	ヒポクラテス法で整復できるようになる。
4		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
5		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
6		肘内障	肘内障が整復できるようになる。
7		顎関節脱臼	口外整復法ができるようになる。
8		顎関節脱臼	口内法で整復できるようになる。
9		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼を整復できるようになる。
10		顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
11		肩関節脱臼	コッヘル法・ヒポクラテス法の整復ができるようになる。
12		肘関節脱臼	肘関節後方脱臼・肘内障の整復ができるようになる。
13		顎関節脱臼	口外法・口内法の整復ができるようになる。
14		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の整復法ができるようになる。
15		試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法ができるようになる。

科目名 【英】	臨床実習 2 Clinical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	6.7

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	医療者が臨床に必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。 医療面接や接遇の実技を行う。
到達目標	医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。 一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。 外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。

準備学習 時間外学習	1年次の臨床実習の復習が望ましい
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや一版臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	ガイダンス	臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。 適切な身だしなみを実践できる。	
2	医療倫理	インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（スタンダード・プリクーション）を学ぶ。 インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。	
3	診察法 1	医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。 医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。	
4	診察法 2	医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。 情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。	
5	診察法 3	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。	
6	診察法 4	視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。 診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。	
7	診察法 5	接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。 一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。	
8	診察法 6	一般的なビジネスマナーを学ぶ。 服装と身だしなみのマナー、お辞儀、 会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。	
9	診察法 7	医療人としてのマナーを学ぶ。 医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。	
10	外部臨床実習 ガイダンス	外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。 外部臨床実習の到達目標を説明できる。	
11	ロールプレイング 1	症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。 ロールプレイングから症例記録を作成することができる。	
12	ロールプレイング 2	症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。 症例記録から症例レポートを作成することができる。	
13	ロールプレイング 3	一般的な整骨院業務を学ぶ。 挨拶・事前準備（ベッドメイク、掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・ 介助法（寝かせ方、座らせ方、起こし方、立たせ方など）を実施することができる。	
14	振り返り 1	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。	
15	振り返り 2	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 症例レポートの発表を行うことができる。	

16		検査法 1	上肢の検査法を実施することができる。
17		検査法 2	上肢・下肢の検査法を実施することができる。
18		検査法 3	下肢の検査法を実施することができる。
19		リフレクソロジー 1	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。
20		リフレクソロジー 2	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。
21		MMT 1	MMTについて理解することができる。
22		MMT 2	MMTについて理解することができる。
23		MMT 3	MMTについて理解することができる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 1 Course of Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解し、それを説明できる。
2		運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解し、各関節での実際を想起できる。
3		運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解し、それを説明できる。
4		運動学 4	四肢と体幹の運動 1 【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
5		運動学 5	四肢と体幹の運動 2 【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
6		運動学 6	四肢と体幹の運動 3 【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
7		運動学 7	四肢と体幹の運動 4 【股関節】 股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
8		運動学 8	四肢と体幹の運動 5 【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
9		運動学 9	四肢と体幹の運動 6 【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
10		運動学 10	四肢と体幹の運動 7 【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。
11		運動学 11	四肢と体幹の運動 8 【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。
12		運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。
13		運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。
14		運動学 14	運動発達 運動発達について理解し、これを想起できる。
15		運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 4 Course of Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識 ①	骨 関節 の基礎知識 の 理解 と 習得	
2	整形外科診察法①	姿勢 四肢・体幹 上下肢長 の診方 計測法の 理解 と 習得	
3	整形外科検査法①	画像検査 骨密度検査 の 原理 と 診方 の 理解 と 習得	
4	整形外科的治療法 ①	保存療法 の 意味 と 意義 と 方法 の 理解 と 習得	
5	骨・関節損傷総論 ①	骨折 の 定義・分類・症状・診断・治癒・治療 の 理解 と 習得	
6	骨・関節損傷総論 ③	骨折 の 合併症 関節損傷 の 理解 と 習得	
7	感染性疾患①	感染の基礎 急性化膿性骨髄炎 慢性骨髄炎 の 理解 と 習得	
8	骨および軟部腫瘍 ①	悪性骨腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
9	骨および軟部腫瘍 ③	悪性・良性軟部腫瘍の 基礎 診断 治療法の 理解 と 習得	
10	関節リウマチ	関節リウマチの 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
11	その他の骨関節疾患	血友病性関節症・離断性骨軟骨炎・関節遊離体の症状 病態 治療の 理解 と 習得	
12	骨粗鬆症①	骨粗鬆症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患①	遺伝形式基礎 と 先天性骨系統疾患の総論 についての 理解 と 習得	
14	先天性の骨・軟骨疾患③	大理石病・マルファン症候群・多発性神経線維腫症・くる病・巨人症の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	
15	骨端症②	テストの解説及び セーバー病・キーンベック病・ケーラー病の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得	

科目名 【英】	柔道整復応用講座 5 Couse of Judo Therapy Advanced 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率60%を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論 改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	試験100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・II. 先天異常⇔後天性疾患	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
2	III. 循環障害-2	授業内容（血液やリンパ循環の障害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
3	IV. 細胞障害-2	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
4	V. 増殖と修復-2	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
5	VI. 炎症-2	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
6	VI. 炎症-4	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
7	VII. 免疫-2	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
8	VII. 免疫-4	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
9	VIII. 腫瘍-2	授業内容（良性腫瘍と悪性腫瘍の差）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
10	I. 病因, II. 先天異常⇔後天性疾患-4	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
11	VI. 炎症-6	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
12	VII. 免疫-6	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
13	VIII. 腫瘍-4	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
14	総まとめ-2	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
15	総まとめ-4、試験	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	

科目名 【英】	解剖生理学2 Anatomy and Physiology (Anatomical			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2 学年	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	池 宏海	実務者経験	平成2年から20年まで大学解剖学講座で教育に従事。平成20年から令和1年専門学校で講義を行う（現在に至る）。
------	------	-------	--

学習内容	講義形式で人体の構造と機能について学ぶ
到達目標	系統別に体の構造を理解した上で、人体で起こる様々な現象を理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学の教本でマスターしたことを過去の国家試験問題を解き、理解度を確認する。
使用教材	医歯薬出版 解剖学 生理学
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験のみで評価
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		脈管系	総論〔体循環と肺循環 血管の形態・構造〕、心臓〔位置・構造 弁・心膜・興奮伝導系 心臓の脈管と神経 心膜〕を理解する。
2		脈管系	肺循環、体循環（動脈系）を理解する。
3		脈管系	体循環（静脈系）、胎児循環を理解する。
4		脈管系	リンパ系を理解する。
5		内臓系	消化器〔口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸〕を理解する。
6		内臓系	消化器〔肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜〕を理解する。
7		内臓系	呼吸器〔外鼻・鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺・胸膜・縦隔〕を理解する。
8		内臓系	泌尿器〔腎臓・尿管・膀胱・尿道〕を理解する。
9		内臓系	生殖器〔生殖器の働き・男性生殖器(精巣・精巣上体・精管・付属生殖器・陰茎・陰嚢)〕を理解する。
10		内臓系	生殖器〔女性生殖器(卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部・会陰・卵巣と子宮の周期的変化・胎盤)〕を理解する。
11		感覚器系	外皮(皮膚 筋・腱・関節の感覚神経)を理解する。
12		感覚器系	①視覚器〔眼球、眼球付属器(眼瞼・涙器・眼筋)〕を理解する。
13		感覚器系	②聴覚器・④平衡覚器〔外耳 中耳(鼓膜・鼓室・耳管) 内耳(蝸牛・前庭・半規管・平衡覚器と聴覚器および各中枢)〕を理解する、
14		感覚器系	⑤味覚器〔舌・味覚神経〕、⑥嗅覚器〔嗅上皮・嗅球・嗅覚中枢〕を理解する。
15		体表解剖	体表を区分し、体表から骨・筋・血管・神経など読み取れるようにする。
16			

科目名 【英】	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。
到達目標	リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための、専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	リハビリテーションの概念・歴史	リハビリテーションの概念・歴史 リハビリテーションの理念を説明することができるようになる	
2	障害の捉え方・ICIDH	国際障害分類 ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる	
3	障害と生活機能 ICF	国際生活機能分類 ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる	
4	リハビリテーションでの多職種連携	リハビリテーションに関わる職種・多職種連携 リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる	
5	評価学 1	リハビリテーションにおける評価 リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる	
6	障害学と治療学 1	関節機能障害とその治療 可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる	
7	障害学と治療学 2	筋力低下・神経障害とその治療 筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる	
8	障害学と治療学 3	各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法） 作業療法について説明できるようになる	
9	障害学と治療学 4	各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害とその治療） 言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる	
10	高齢者 1	廃用症候群 廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる	
11	高齢者 2	医療制度・介護保険制度 高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる	
12	脳血管障害 1	脳血管障害 脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる	
13	脳血管障害 2	脳血管障害 脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる	
14	パーキンソン病	パーキンソン病・神経疾患 パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる	
15	試験解説・まとめ	前期試験を解説 前期で学習した範囲が説明できるようになる	

科目名 【英】	一般臨床医学 General Remarks of Clinical Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	---

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		医療面接 視診	医療面接、方法と意義、社会歴、主訴について理解、説明できるようになる 体格・体形 身体所見の取り方について理解、説明できるようになる
2		視診	精神状態、意識状態について理解、説明できるようになる 異常運動 不随意運動、麻痺について理解、説明できるようになる
3		視診	片麻痺歩行～随意性歩行について理解、説明できるようになる 皮膚の色調の異常について理解、説明できるようになる
4		視診	顔面の異常運動について理解、説明できるようになる 頸部の異常所見について理解、説明できるようになる
5		視診 打診	手の変形、足の変形について理解、説明できるようになる 打診音の種類について理解、説明できるようになる
6		聴診	肺の聴診、心臓の聴診、腹部の聴診について理解、説明できるようになる
7		触診 生命徴候	腹部の異常について理解、説明できるようになる 体温、血圧について理解、説明できるようになる
8		感覚検査 反射検査	表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査について理解、説明できるようになる 反射の異常について理解、説明できるようになる
9		国家試験出題疾患 解説	内分泌疾患、腎・尿路系疾患、神経疾患、リウマチ・膠原病、アレルギー疾患について 理解、説明できるようになる
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名	外科学概論 Introduction of Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	医療の基本を学ぶ。まず、外科学総論として外傷学や手術の基本を学ぶ。外科学各論として、各臓器の外科疾患における病態と治療法について学ぶ。
到達目標	医学における生理学と解剖学に基づいた外科臨床の考え方を身につける。さらに、基礎的な医療用語を筆記にて説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「外科学概論」（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験で100%評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		損傷	創と傷について説明できる。バイタルサインが列挙できる。
2		熱傷・感染症	熱傷深度について説明できる。破傷風など外科感染症を説明できる。
3		腫瘍	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。ボールマン分類を図示できる。
4		ショック・輸液	ショックの定義を説明できる。酸塩基平衡を表示できる。
5		消毒滅菌・手術	消毒液と滅菌法を説明できる。手術法を列挙できる。
6		麻酔・免疫・出血	局所麻酔について説明できる。内外出血の原因疾患を列挙できる。
7		心肺蘇生	救急医療のABCとAEDを説明できる。
8		総論総まとめ	中間テストを行ない、理解していない項目を学習する。
9		脳神経外科疾患	頭部外傷の病型分類を表示できる。頭蓋内出血の各疾患を説明できる。
10		甲状腺頸部胸壁呼吸器疾患	甲状腺機能亢進症について説明できる。肺がん、肋骨骨折を説明できる。
11		心臓脈管疾患	虚血性心疾患を説明できる。末梢の動脈静脈疾患を説明できる。
12		乳腺疾患・腹部外科疾患	乳がんについて説明できる。腹部外科総論を説明できる。
13		腹部外科疾患	腹部外科各論を説明できる。急性腹症を表示できる。
14		確認テスト	個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。
15		各論総まとめ	理解していない項目を学習する。各論のうち特に外傷外科について説明できるようになる。

科目名 【英】	衛生学・公衆衛生学 Hygiene and Public Health			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する。
到達目標	国家試験の正答率60%を採ることができるようになる。

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	衛生学・公衆衛生学 改定版6版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	1. 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	心身の健康の保全を研究する学問と理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
2	2. 健康の概念	WHOにおける健康を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
3	3. 疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
4	4. 感染症の予防	感染と発病を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
5	5. 消毒	消毒の意義を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
6	6. 環境衛生	環境問題を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
7	7. 生活環境・食品衛生活動	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
8	8. 母子保健	ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
9	9. 学校保健	健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
10	10. 産業保健	働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
11	11. 成人・高齢者保健	老年人口の増加と生活習慣予防対策を理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
12	12. 精神保健、13. 地域保険と国際保健	精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
13	14. 衛生行政と保健医療の制度、15. 医療の倫理と安全の確保	公衆衛生の定義の中でコミュニティーの組織的な努力を通じての部分を実体化したものと理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
14	16. 疫学	人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する科学を疫学と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
15	試験対策	試験対策問題の解答と解説。正答率60%を採ることができるようになる。	

科目名 【英】	基礎鑑別学 Difference Diagnosis Basic			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	---

学習内容	柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症をを招くような注意すべき疾患の兆候に重点を置いて解説する
到達目標	患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる 医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる

準備学習 時間外学習	人体の構造である解剖学 柔道整復術の関連の深い整形外科学の知識を整理しておくこと
使用教材	全国柔道整復学校協会監修 「医療の中の柔道整復」 有沢 修 著
留意点 備 考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		鑑別学1	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
2		鑑別学2	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
3		鑑別学3	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
4		鑑別学4	血流障害を伴う損傷 血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる
5		鑑別学5	末梢神経障害を伴う損傷 神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る
6		鑑別学6	脱臼骨折 脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る
7		鑑別学7	外出血を伴う損傷 柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる
8		鑑別学8	病的骨折及び脱臼 骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる
9		鑑別学9	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
10		鑑別学10	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
11		鑑別学11	脊髄症状のある損傷 脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる
12		鑑別学12	呼吸運動障害を伴う損傷 呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る
13		鑑別学13	内蔵損傷の合併が疑われる損傷 内蔵損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる
14		鑑別学14	高エネルギー外傷 身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる
15		鑑別学15	全体のまとめと総復習

科目名 【英】	柔道 3 Judo 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（手技・腰技）や礼法を習得する。
到達目標	形や礼法を習得し、行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	1年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身を取り外傷を予防する。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、柔道実技試験にて評価する。
------	--------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		受身	横・前回り受身を行うことができる。
2		約束乱取 1	大外刈や体落の技の基本を学び行うことができる。
3		約束乱取 2	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
4		約束乱取 3	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
5		形（手技） 1	講道館の形について学ぶ 浮落の形（右投）を学び行うことができる。
6		形（手技） 2	講道館の形について学ぶ 浮落の形（左投）を学び行うことができる。
7		形（手技） 3	浮落の形を左投、右投を行うことができる。
8		形（手技） 4	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
9		形（手技） 5	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
10		形（手技） 6	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
11		形（手技） 7	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
12		形（手技） 8	講道館の形について学ぶ 肩車の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
13		形（腰技）	講道館の形について学ぶ 浮腰の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名 【英】	外傷予防理論実習 1 Injury Prevention Conditioning Practices 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	田中 精一	実務者経験	2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自の開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。
到達目標	機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。

準備学習 時間外学習	授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問に来てください。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。
2		柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の職務の理解。
3		発達と老化の理解 I	サルコペニアとフレイルの違い。
4		介護保険制度 認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解
5		介護保険制度 二人組 認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解と調査体験。
6		介護区分とサービス	各種介護サービスの理解
7		介護の過程 I 情報分析	介護支援のための情報分析（基本情報、アセスメント、課題の抽出）
8		介護の過程 II 居宅介護計画（原案）作成	介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。
9		ADLの評価法FIM 高齢者の 身体機能	ADLの評価（ランクによる支援の考え方） 歩行とスクワット動作等の確認と指導ポイント
10		機能訓練指導 機能訓練計画作成	機能訓練指導方法の理解。 個別機能訓練計画作成力
11		認知症の理解	認知症患者の理解
12		高齢者介護と I C F	国際障害分類と国際生活機能分類（世界共通の分類）の理解
13		ロコモティブシンドローム	ロコモテスト方法と評価方法の習得
14		高齢者救急・高齢者疾患	介護施設における救急と高齢者疾患の理解・我が国と欧米の死生観の違い
15		試験解答と解説 柔整師と機能訓練指導員 まとめ	筆記試験解答と解説 柔道整復師としての職業選択の幅

科目名 【英】	柔道整復実技3 Judo Therapy Practical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	金釘直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。
------	------	-------	--------------------------------------

学習内容	肩鎖関節部の固定法及び代表的な骨折の整復法を学ぶ。 骨折を整復する前後の診察法を学ぶ。
到達目標	鎖骨骨折、上腕骨外科頸外転型骨折、上腕骨顆上伸展型骨折、コーレス骨折、上腕骨顆上骨折の整復の操作を実施できる。肩鎖関節脱臼の固定ができる。 臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%
------	-------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼におけるテーピング固定ができる 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
2		鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や固定法を行うことができる。
3		上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
4		上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
5		コーレス骨折 牽引直圧法 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
6		コーレス骨折 屈曲 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
7		上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
8		上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
9		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼のテーピングによる固定法を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や固定法を行うことができる。
10		鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
11		上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
12		コーレス骨折 牽引直圧法/屈曲整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
13		上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
14		総復習1	後期の授業で学んだ全て整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。
15		総復習2	要点の整理。説明しながら整復法ができるようになる。

科目名 【英】	柔道整復実技 4 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	前腕骨遠位端部骨折の各論、顎、肩、肘、肩鎖関節脱臼の整復実技、上腕骨外科頸骨折、橈骨遠位端部骨折の固定法、functional braceによる上腕骨骨幹部骨折の応用固定法、肩鎖関節脱臼のテーピング固定法を学ぶ。
到達目標	2年生の進級実技試験に合格し各骨折、脱臼の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	9/28	前腕骨遠位端部骨折	橈骨遠位端部骨折の分類、コーレス骨折の発生機序、骨折線、骨片転位説明できる。
2	10/5	前腕骨遠位端部骨折	コーレス骨折の症状、変形、定型的転位、合併症などが説明できる。
3	10/12	前腕骨遠位端部骨折	コーレス固定法、続発症、後遺症などが説明できる。
4	10/26	前腕骨遠位端部骨折	スミス骨折の発生機序、骨片転位、症状、固定法、後療法の説明ができる。
5	11/2	前腕骨遠位端部骨折	バートン骨折、ショーファー骨折、橈骨遠位端骨端線離開の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。
6	11/9	肩鎖関節固定実技	進級実技試験にむけた肩鎖関節脱臼のテーピング固定法ができる。
7	11/16	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。
8	11/30	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。
9	12/7	コーレス骨折固定 実技	キャスト材を用いた前腕のシーネの作成を行いコーレス骨折の固定実技ができる。
10	12/14	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
11	12/21	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
12	1/11	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
13	2/1	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
14	2/8	復習	脱臼の整復法（顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）
15	2/22	後期試験解答	後期試験問題の解答と解説

科目名 【英】	柔道整復実技 5 (ii) Judo Therapy Practical Training 5 (ii)			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	下肢および頭部顔面の損傷を学ぶ。
到達目標	発生機序や症状を理解し、鑑別することができる。国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	50分授業

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	膝蓋骨骨折 1	理論編で発生機序や転位、症状を理解する	
2	膝蓋骨骨折 2	実技編で整復、固定、搬送時の固定、後療法などを理解する	
3	膝蓋骨脱臼 1	発生機序（発生要因）を理解する	
4	膝蓋骨脱臼 2	実技編で整復、固定、搬送時の固定、後療法などを理解する	
5	股関節の 軟部組織損傷 1	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群を理解する	
6	股関節の 軟部組織損傷 2	股関節外転位拘縮、内転位拘縮、屈曲位拘縮について理解する	
7	股関節の 軟部組織損傷 3	ペルテス病、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症、変形性股関節症について理解する	
8	大腿部の 軟部組織損傷 1	筋損傷の総論を振り返り、大腿部打撲について理解する	
9	大腿部の 軟部組織損傷 2	大腿四頭筋の肉ばなれについて理解する	
10	大腿部の 軟部組織損傷 3	ハムストリングスの肉ばなれについて理解する	
11	大腿部の 軟部組織損傷 4	実技編で大腿四頭筋の肉ばなれ、ハムストリングスの肉ばなれについて理解する	
12	頭部・顔面部の 軟部組織損傷 1	頭部・顔面・顎関節の解剖、顔面の打撲について理解する	
13	頭部・顔面部の 軟部組織損傷 2	顎関節症について理解する	
14	頭部・顔面部の 軟部組織損傷 3	顎関節捻挫について理解する	
15	試験解説	試験の振り返り・復習	

科目名 【英】	柔道整復実技 5 (i) Judo Therapy Practical Training 5 (i)			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	手・指部の損傷を学ぶ
到達目標	手・指部の損傷の国家試験問題を解けるようにする

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する
使用教材	柔整理論 改訂第6版
留意点 備 考	特有の外観変形などで、疾患を連想できるようにしてください

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	手・指部の損傷 1	中手骨・頭骨骨折、頸部骨折、ボクサー骨折の骨片転位、整復法、固定法を理解する。	
2	手・指部の損傷 2	中手骨・骨幹部の症状（横骨折、斜骨折、螺旋状骨折）を理解する。	
3	手・指部の損傷 3	ベネット骨折の発生機序、症状、注意事項を理解する。ローランド骨折を理解する。	
4	手・指部の損傷 4	CM関節の発生機序、症状を理解する。指骨の骨折（基節骨の分類）を理解する。	
5	手・指部の損傷 5	中節骨骨折（頸部・骨幹部・掌側板付着部裂利骨折）の概説、症状を理解する。	
6	手・指部の損傷 6	中節骨掌側板付着部裂離骨折、末節骨骨折の分類が理解できる。	
7	手・指部の損傷 7	末節骨骨折の転位を理解する。マレットフィンガーの分類、症状を理解する。	
8	手・指部の損傷 8	舟状骨骨折の特徴、発生機序、分類、症状を理解できる。	
9	手・指部の損傷 9	舟状骨骨折の合併症、整復法、固定法、注意点、難治の理由、予後を理解できる。	
10	手・指部の損傷 10	三角骨骨折、有鉤骨骨折、豆状骨折の発生機序、症状を理解できる。	
11	手・指部の損傷 11	月状骨骨折、有頭骨骨折、大菱形骨骨折、手関節の脱臼、遠位橈尺関節脱臼が理解できる。	
12	手・指部の損傷 12	月状骨骨折、月状骨周囲脱臼、CM関節脱臼、母指MP関節脱臼を知解できる	
13	手・指部の損傷 13	母指以外のMP関節脱臼を理解する。	
14	手・指部の損傷 14	後期筆記テスト問題の説明、今までの復習	
15	手・指部の損傷 15	後期筆記試験問題の解答、答え合わせ。	

科目名 【英】	柔道整復実技 6 Judo Therapy Practical Training 6			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2024年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	下肢の骨折や脱臼についての発生機転・症状を覚えやすい方法で学ぶ。基本的な柔道整復理論を理解することによって、1年次に履修した基礎医学（解剖学・生理学）を通して観察・判断し、適切な処置が出来るような思考法を培い、基本的な処置原則を身につけることを学ぶ。また、3年次に必要な基礎的な知識を学習する。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	授業に参加されない方、授業の妨害をされる方は欠課とすることがあります。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験100%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	足・足趾骨骨折 1	前回の復習・小テスト・距骨骨折【距骨の解剖・各骨折の分類、発生機転、ホーキンス分類、症状、治療法】。距骨骨折について説明することができる。	
2	足・足趾骨骨折 2	前回の復習・小テスト・踵骨骨折【踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ペーラー角、治療法、留意点、予後】。踵骨骨折について説明することができる。	
3	足・足趾骨骨折 3	前回の復習・小テスト。足根骨骨折【舟状骨骨折&立方骨骨折&楔状骨骨折の分類・発生機序・症状・治療法】舟状骨骨折・立方骨骨折・楔状骨骨折について説明ができる。	
4	足・足趾骨骨折 4	前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法などを説明することができる。	
5	膝関節部 軟部組織損傷 1	前回の復習・小テスト・半月板損傷・側副靭帯損傷【発生機序・症状・徒手検査・治療法 など】半月板損傷・側副靭帯損傷を説明することができる。	
6	膝関節部 軟部組織損傷 2	前回の復習・小テスト・十字靭帯損傷・発育期の膝関節障害【発生機序・症状・徒手検査・治療法など】。十字靭帯損傷・膝の変形・大腿四頭筋拘縮症について説明することができる。	
7	膝関節部 軟部組織損傷 3	前回の復習・小テスト・発育期の膝関節障害【オスグッド・シュラッター病・ジャンパー膝・分裂膝蓋骨など】。発育期の膝関節障害について説明することができる。	
8	膝関節部 軟部組織損傷 4	前回の復習・小テスト・腸脛靭帯炎・鷲足炎・膝蓋大腿関節障害【発生機序・症状・徒手検査・治療法など】。腸脛靭帯炎・鷲足炎・膝蓋大腿関節障害について説明することができる。	
9	膝関節部 軟部組織損傷 5	前回の復習・小テスト・膝周囲の滑液包関節包の障害・神経障害【発生機序・症状・治療法 など】。膝周囲の滑液包関節包の障害・神経障害について説明することができる。	
10	下腿部 軟部組織損傷 1	前回の復習・小テスト・アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎・アキレス腱断裂・下腿の肉離れ・過労性脛部痛【発生機序・症状・治療法など】。下腿の損傷について説明することができる。	
11	足関節捻挫の類症鑑別 1	前回の復習・小テスト・足関節捻挫・距骨滑車の骨軟骨損傷、足根洞症候群【足部の解剖・発生機序、症状、治療法など】。足関節捻挫や類症鑑別について説明ができる。	
12	足関節捻挫の類症鑑別 2	前回の復習・小テスト・腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨種、三角骨障害【発生機転・症状・治療法 など】足部の軟部組織損傷について説明することができる。	
13	中足部から後足部の有痛性疾患 2	前回の復習・小テスト・Sever病、アキレス腱滑液包炎、有痛性外脛骨、踵骨棘、足底腱膜炎、第1Kohler病、足根管症候群について説明できる。	
14	前足部の有痛性疾患	前回の復習・小テスト・外反母趾、強剛母趾、種子骨障害、フライバーグ病、モートン病・扁平足について説明できる。	
15	試験解説	後期試験解説・前回の復習・補足	

科目名 【英】	臨床実習 3 Clinical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	夏季集中	曜 日	外部実習	時 限	

担当教員	岩本 曉美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し施術をおこなう。
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対し、適切な態度で接する。

準備学習 時間外学習	1. 施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。 2. 施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。 3. 施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。 4. 医学的な清潔の意味が説明できること。 5. 施術所の清潔保持の重要性について説明できること。 6. 守秘義務を説明できること。
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】						
1		基礎実習	1) 柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける 2) 医療面接の実施 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療器機の効果、禁忌の理解 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 1) 環境準備 2) 受付業務 3) 患者さんの誘導を実施			
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9		患者さんに対する対応	1) 患者に対して適切な対応ができる。 2) 患者の抱える問題点に共感できる。 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。			
10						
11						
12						
13		施術録作成・症例検討	1) 施術録の記載 2) 症例検討の実施			
14						
15						
16						
17		保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施			
18						
19						
20						
21		実習期間	時間数	回数	総時間	期間
22			8時間(全日)	6回 (6回目は5時間)	45時間	8月中の1週間
23						

科目名 【英】	柔道整復応用講座 2 Course of Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。 柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わるときの共通言語の理解に繋げる。
到達目標	主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。 専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト１００％
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器障害 1	骨折・変形性関節症・骨粗鬆症 高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる	
2	運動器障害 2	上肢の運動器疾患 上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
3	運動器障害 3	下肢の運動器疾患 下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
4	運動器障害 4	体幹の運動器疾患 体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
5	内部障害 1	呼吸機能障害・COPD・在宅酸素療法 呼吸機能障害を説明できるようになる	
6	内部障害 2	心疾患リハビリテーション・運動処方 心臓機能障害を説明できるようになる	
7	スポーツ・障害者 スポーツ	スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる	
8	試験解説・まとめ	後期試験解説 後期で学習した範囲が説明できるようになる	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 3 Course of Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	--

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		診察概論 診察の意義	診察の進め方 心構え 評価と記録について理解、説明できるようになる
2		視診	体位・姿勢、栄養状態、肥満とやせについて理解、説明できるようになる
3		視診	運動失調、異常歩行について理解、説明できるようになる
4		視診	皮膚の正常の異常について理解、説明できるようになる 頭部の形、大きさ、顔貌、顔色について理解、説明できるようになる
5		視診	脊柱の異常変化について理解、説明できるようになる 胸部、腹部の異常変化について理解、説明できるようになる
6		打診	胸部の打診、腹部の打診について理解、説明できるようになる
7		触診	皮膚、皮下の異常について理解、説明できるようになる
8		生命徴候	脈拍、呼吸の異常について理解、説明できるようになる
9		テスト解説	定期考査について疑義受付
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 6 Course of Judo Therapy Advanced 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように基礎知識を身につける。
到達目標	前期範囲を含めて自ら考えて説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業同様、自学習において自ら考える力を養うことを望む
使用教材	外科学概論 改訂第4版 南江堂
留意点 備 考	50分授業として実施する。

成績評価	期末試験で100%評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		外科学総論 1	損傷と創傷 損傷の分類を説明できる
2		外科学総論 2	熱傷、炎症、腫瘍 熱傷の分類を説明できる
3		外科学総論 3	消毒、麻酔、手術 消毒薬と特徴について説明できる
4		外科学総論 4	ショック、輸液、心肺蘇生 ショックの定義を説明できる
5		外科学総論 5	移植、出血と止血 移植の用語を説明できる
6		外科学総論 6	総論まとめ 総論の要点をまとめ、説明できる
7		外科学総論 7	総論テスト（中間テスト） 中間試験で及第点がとれる
8		外科学各論 1	脳神経外科疾患 主な脳神経疾患の種類を挙げることができる
9		外科学各論 2	甲状腺、胸壁・呼吸器疾患 胸部損傷での注意点を説明することができる
10		外科学各論 3	心臓・脈管疾患 ASO, TAOの相違点を説明できる
11		外科学各論 4	乳腺疾患、腹部疾患 腹部疾患の症状を説明できる
12		外科学各論 5	腹部疾患 腹部疾患における注意点を説明できる
13		外科学各論 6	各論まとめ 各論の要点をまとめ、説明できる
14		外科学各論 7	外科学まとめ、受験の心構え 医療者としての心構えを示すことができる
15		学年末まとめ	試験実習 1 模擬試験で及第点がとることができる

科目名 【英】	柔道整復応用講座 7 Course of Judo Therapy Advanced 7			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する。
到達目標	国家試験の正答率60%を採ることができるようになる。

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	衛生学・公衆衛生学 改定版6版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	1. 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	心身の健康の保全を研究する学問と理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
2	2. 健康の概念	WHOにおける健康を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
3	3. 疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
4	4. 感染症の予防	感染と発病を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
5	5. 消毒	消毒の意義を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
6	6. 環境衛生	環境問題を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
7	7. 生活環境・食品衛生活動	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
8	8. 母子保健	ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。	
9	9. 学校保健	健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
10	10. 産業保健	働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
11	11. 成人・高齢者保健	老年人口の増加と生活習慣予防対策を理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
12	12. 精神保健、13. 地域保険と国際保健	精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
13	14. 衛生行政と保健医療の制度、15. 医療の倫理と安全の確保	公衆衛生の定義の中でコミュニティーの組織学的な努力を通じての部分を実体化したものと理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
14	16. 疫学	人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する科学を疫学と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。	
15	試験対策	試験対策問題の解答と解説。正答率60%を採ることができるようになる。	